ママさんレポート

激戦の跡をたどると歴史が見えてくる

●史跡 田原坂を訪ねて●

明治維新以来の最大にして最後の内乱、西南の役。日本の近代化とひきかえに多くの命が失われたこの戦いは、今全国的に注目されています。

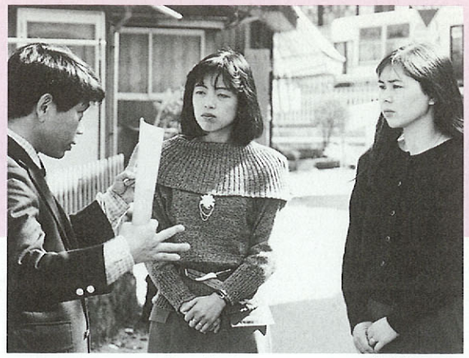
今回は七ヵ月に及ぶ西南の役の天王山ともいうべき田原坂（植木町）の激戦の跡をたどりました。

案内／郷土史家　勇（いさみ）知之さん（植木町在住）

西郷隆盛を総大将とする薩軍は、その一部で熊本城を包囲、さらに主力を北上させ、熊本城救援のために南下した官軍と田原坂で激突した。

自然の地形を巧みに利用して守る薩軍の精鋭を前に、官軍は苦戦。一日に数百名もの死傷者をだすほどの激しい戦いが十七昼夜も続いた。

しかし、装備で勝る官軍が次第に圧倒し、薩軍はついに敗走した。



勇 知之さん　　堤 早苗さん　　吉田栄里子さん

堤　私、初めて田原坂に来たんですけど、案外ゆるやかな坂なんですね。〝越すに越されぬ田原坂〟っていう民謡のイメージが強いせいか、もっと険しい急斜面を想像してたんですよ。

吉田　熊本城[※1]にしてもそうだけど、加藤清正が重く視て防御の備えをしていた田原坂が、時代が変わって西南の役の要地になったという話、おもしろいですよね。

堤　一の坂、二の坂、三の坂を登った後で公園にある資料館を見ると、田原坂の激戦というのが実感持って迫ってくるのよね。パノラマに立てば戦場の地形の様子もよくわかるし。

吉田　慰霊塔とか薩軍墓地や官軍墓地を見ると、戦死者の数がすごいでしょう。私なんか、何でも母親の感性で見てしまうから、今もし戦争が起こったら子供はどうなるだろうって考えさせられました。

堤　西南の役では「美少年[※2]」の話なんかもそうだけど、十代や二十くらいの若者が大勢命を落としてるでしょう。親の身になれば辛いですよね。

吉田　子供たちには、自分が本当にやりたいことをさせてあげたいですね。

堤　子供を見てると「熊本で偉い人は誰？」とか「熊本で一番高い山はどこ？」とか、そういうことにものすごく興味を持つ時期があるみたい。誰だって故郷がすきなのは、故郷のことをたくさん知ってるからでしょう。歴史にしても、いろんなエピソードを知ってると、やっぱり見方が変わってくるんですよね。知れば知るほど面白くなるっていうか…。

吉田　歴史を科目としてじゃなくて、身近な昔語りとして受け止めればいいんですよね。

堤　ええ、そういう感覚を私たち主婦も持っていいんじゃないかな。こんな史跡も、学校の社会見学で行くだけでなく、親子で巡ってみるとか。

吉田　いいですね。薩軍墓地にも新しく公園ができるみたいだったし。

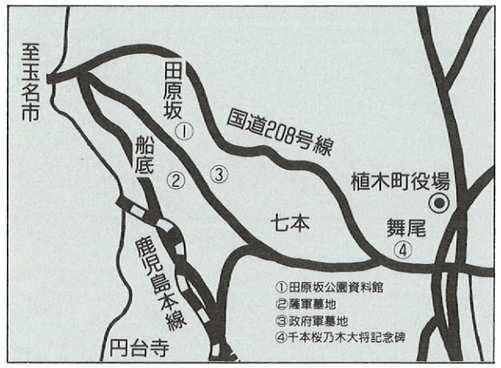
堤　考えてみれば、田原坂は数えきれないほど多くの人たちのお墓なんですよね。

吉田　なんだか昔の人のエネルギーってすごいですね。新しい時代をつくるために死ねるんだから。だけど本当にそうまでしなくてはいけなかったのかしら。せっかくの若い力が戦うことだけに向かっていったと思うと悲しいですね。

堤　今の時代が平和で良かったわ。

吉田　ほんとに。でも、田原坂で亡くなった人たちがあってこそ、私たちがあるんですよ。

堤　そうですね。そしてこの平和を守っていくことが、私たちの務めなんですよね。



※(1) 加藤清正は熊本城下に北から入る道を田原坂～植木～向坂～出町口の一本に絞り、田原坂の丘陵に蛇行曲線を描いた凹道を通した。官軍は全長千五百メートルのこの坂さえ越えれば、武器、弾薬、補給物資を大量にたやすく運ぶことができ、熊本城の攻囲を破り城を開放するためにはこの道をどうしても通らねばならなかった。　引用／「日録田原坂戦記」勇 知之著

※(2) 田原坂の民謡のなかに「馬上ゆたかな美少年」とうたわれ、人吉藩士三宅八郎がモデルといわれるが、諸説あり若くして命を散らせた兵士たちを悼んでうたわれたものと思われる。

MAMA-SAN REPORT